

平成29年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

平成30年 3月 29日

報告者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	北山由紀雄
研究課題	ガラス乾板写真の高精細画像化とその活用					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	北山由紀雄	造形デザイン学科・准教授	写真、作品保存		
	分担者					
研究実績の概要	<p>本研究の目的は、今から90年～80年ほど以前に撮影されたガラス乾板ネガの写真を、既に撮影が完了したデータを基に高細密画像処理を行うと共に、データベース化を進めて撮影された内容を明らかにすることである。</p> <p>平成29年2月から3月に掛けて行った保存措置の際に得ていた、各ガラス乾板の画像は、後の活用を踏まえ、高精細画像を得る目的で、画面分割及びHDRによる撮影を採用している。この画像の一部に対して高精細合成を実施した。</p> <p>合成を数多く行っていくと、幾つかの画像において、僅かな不整合（画像430ミリに対し、0.1～0.5ミリ程度）が認められ、改めてその方法を検討して実施している。その緻密な作業は当初予想以上に時間を要するもので、既に修正されたものに対しても、念のため、新たな方法に基づき再修正を実施した。その結果、得られた画像の質は想定以上のものとなり、実施予定枚数とした150枚（382枚中）を上回ることも出来た。</p> <p>更にこの中の16枚に対し、ゴミや傷、カビ跡、画像劣化やニスによるムラ等を、デジタル画像処理にて取り除く処理を行っている。この作業も高細密画像に対する処理であったことから、1枚の画像処理に対しての所要時間は平均で15時間程掛かる作業となった。得られた画像データは、基画像に対して300%拡大を行っても、ゴミや傷などは確認出来ないレベルとなっている。これら画像は、保存性の高い出力用紙を用いて、高品位インクジェット出力を実施し、内15枚を倉敷フォトミユラルf特別展「紡がれる記憶―戦前の倉紡での暮らしと風景―」（倉敷アイビースクエア・アイビー学館、平成29年10月28日～11月12日）において、額装の上、展示を行った。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>この展示内容に関しては山陽新聞に取り上げられ、多くの方に展示を見て頂くことが出来た。又、この記事を読んだ方が、所有されるガラス乾板画像を持参し、その内容について確認することが出来る等、予想していた波及効果を直接得ることが出来た。</p> <p>これと平行し、事前の簡易合成、及び今回の合成によって得られた画像を基に、画像内容を分析し、関係する周辺資料等からの情報を合わせてデータベースを作成した。このデータベースは、画像に撮影されている内容からの検索を可能としており、同様のものが写っている他の画像を容易に見つけることが出来る。このデータベースを活用し、撮影された場所、年代、クラボウとの関係有無など多くの点について、明らかになっている。</p> <p>ここで得られた内容は、クラボウ了解の下、倉敷市からの画像内容の問い合わせに応じ、画像データ及び撮影されている場所に関する情報を提供している。また、山陽新聞（平成30年1月23日、全県版）にも取り上げられている。更にその後、他の報道機関から、ガラス乾板に関する問い合わせもあり、この研究内容の活用は今後拡がるものと予測される。</p> <p>本研究内容の一部については、日本写真芸術学会誌に投稿しているが、引き続き、次の論文執筆を用意している。</p> <div data-bbox="384 792 916 1146"> </div> <div data-bbox="935 792 1410 1146"> </div>
<p>成果資料目録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷フォトミュラル f 特別展「紡がれる記憶—戦前の倉紡での暮らしと風景—」（倉敷アイビースクエア・アイビー学館、平成29年10月28日～11月12日） ・論文「倉敷紡績関連ガラス写真に関する研究〔1〕—ガラス乾板の撮影内容について—」（日本写真芸術学会、論文査読中）